

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書
(3年計画の1年度目)

1. 研究課題

(和文) 古典解釈の東アジア的展開——宗教文献を中心課題として

(英文) The development of the East Asian exegetical tradition - with special reference to religious texts

2. 研究代表者

(氏名) 藤井 淳

3. 研究期間

平成 25年 4月 から 平成 28年 3月 まで

4. 研究目的 (400字程度)

本研究は、中国を中心とする漢字文化圏の宗教文献と関連の諸事象に関する古典解釈の東アジア的展開の諸相を、他の諸地域における展開と対比的に検討しながら研究するものである。東アジアの古典が成立後、長い歴史の中でいかに継承、解釈され、変容を遂げたかを深く知るには、質量ともに豊富で且つ研究蓄積のある仏教の歴史を検討するのが有効である。例えば中世中国の仏教では、ある語句の意味を注釈する際、中国伝統の訓詁学を一部基にしながら、同音の漢字や意味の共通する漢字に置き換えて語義を展開することによってしばしば自らの理解に引きつけた思想を展開した。長い間に同一の語や概念が全く別様に変異した場合もある。従来近代的研究ではこうした解釈は時に誤解・曲解として軽んじられもしたが、実際は東アジア的思考になじむものとして今も大きな影響もつ。本研究は、漢字文化圏の古典解釈の展開を通時的に探求すると共に、漢字を思考や表現の基盤とする東アジア文化圏の特性をも広く探究する。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

当初の予定通り、研究班を各回4時間、計8回開催した。

[1] 藤井淳・船山徹 (報告) 「趣旨説明、報告課題について、班員の自己紹介、日程相談など」

[2] 船山徹 (報告)、末木文美士・宇佐美文理 (コメンテーター) 「中国における体用説の発生と神不滅論としての仏教」

[3] 石井公成 (報告)、室寺義仁・中西俊英 (コメンテーター) 「一切衆生悉有仏性説のゆくえ——中世・近世の日本の仏教芸能を中心として」

[4] 稲本泰生 (報告)、田中健一・齋藤智寛 (コメンテーター) 「瑞像信仰・舍利信仰の東アジアにおける受容と展開——南京長干寺塔址出土遺物を中心に」

[5] 小川隆 (報告)、坂内栄夫・柳幹康 (コメンテーター) 「禪における行為の論理としての体用論」

[6] 宇佐美文理・宮崎泉・中西俊英 (報告) 「「理」について——中国思想・インド仏教・中国仏教の理解——」

[7] 古勝隆一 (報告)、菅野博史・金志玪 (コメンテーター) 「漢唐経学史における『講周易疏論家義記』の位置」

[8] 中西竜也（報告）、横手裕・古勝亮（コメンテーター）「ルーフ（霊）は「性」か「気」か？
——中国ムスリムの訳語選択とその歴史的背景」

6. 研究成果の概要（400字程度）

研究会で取り上げたテーマは、漢字をベースにする思考法の根幹に関わるテーマとして「体用」「理」「禅」の問題、注釈学史における儒教・仏教・道教の交渉、漢字で表現されたイスラーム思想の特徴、仏教如来蔵思想の東アジア的展開とくに日本独自の発展、仏教美術史における信仰表現の表象の諸点をめぐって行われた。これによって、漢字を用いる東アジア的思考が中国以西のアジア的思考（インドやイスラーム）と具体的にどのような点で決定的な相違を生じる可能性が大きいかが見えてきた。

若手研究者育成および他領域研究との相互交渉と関わる研究成果として、各回の報告者は高濃度の内容を専門以外の人々に分かるように特段の配慮をしながら報告を試みた結果、大学院生が議論に入りやすいように配慮し、異分野研究者からの質疑と対話を高レベルで活発に実現した。

以上各回の研究班の内容の詳細をリアルタイムで公開する手段として、研究班ホームページ（<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~kanjishukyo/home.html>）を作成し、その中で、各回の題目、報告者、コメンテーターのほか、毎回の研究班の内容を約2000字またはそれ以上の長さで詳しく解説して公開している。

7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

研究班ホームページ<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~kanjishukyo/home.html>（各研究会の内容報告）

船山徹『仏典はどう漢訳されたのか——スートラが経典になるとき』、岩波書店、2013年（本研究班の課題の一つである仏典漢訳史に関する概説書）

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区 分	機関数	受入人数		延べ人数			
		外国人	大学院生	外国人	大学院生		
学内（法人内）	5	23	4	5	184	32	40
国立大学	7	8			64		
公立大学	3	3			24		
私立大学	9	16	2	2	128	16	16
大学共同利用機関法人	1	1			8		
独立行政法人等公的研究機関							
民間機関	2	2			16		
外国機関							
その他							
計	27	53	6	7	424	48	56

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

（例）・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

(参加研究者がファーストオーサーであるものを対象)

論文数	16	
うち国際学術誌に掲載された論文数	(15)	3 (3)

※下段の () 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割			
論文数			
うち国際学術誌に掲載された論文数	()	()	()

※下段の () 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由	外国語による海外での出版、および、研究史の集大成としての概説		
掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
<i>A Distant Mirror: Articulating Indic Ideas in Sixth and Seventh Century Chinese Buddhism</i> , edited by Lin Chen-kuo and Michael Radich. Hamburg:	1	Chinese translations of <i>pratyakṣa</i>	船山徹

Hamburg University Press.			
高崎直道監修『シリーズ 大乘仏教10 大乘仏教 のアジア』	1	漢訳仏典と文学	<u>石井公成</u>
高崎直道監修『シリーズ 大乘仏教8 如来蔵と仏 性』	1	宝性論の展開	<u>加納和雄</u>
増尾伸一郎・松崎哲之編 『知のユーラシア5 交 響する東方の智—漢字文 化圏の輪郭』	1	三国仏法伝通史観の功罪—相互交流する アジア仏教の視点から—	<u>石井公成</u>
『老子与华夏歴史文明伝 承創新-2012・中国鹿邑 国際老子文化論壇論文 集』（社会科学文献出版 社）	1	『史記』「老莊與申韓同傳」考	<u>山田俊</u>
RINDAS 伝統思想シリ ーズ14、龍谷大学現代 インド研究センター (RINDAS)	モノグラフ	『不殺生（アヒンサー）の動機・理由 —インド仏教文献を主資料として—』	<u>榎本文雄</u>